

3 各区役所の計画事業

市民にとって身近な区役所では、区や地域の特性を活かした魅力あふれる地域づくりを進めるためにさまざまな事業を実施し、市民の主体的なまちづくり活動を支援しています。

計画期間内（平成23～26年度）において、各区では、それぞれの区が有する特色を発揮しながら、まちづくりの推進に資する以下の事業に重点的に取り組みます。

事業名・担当部 〔計画事業費〕	事業内容 達成目標
中央区	
中央区地域防災力UP事業 中)市民部 〔7百万円〕	<p>災害に強い中央区を目指し、各地域の特徴に応じた中央区防災訓練の充実や避難場所訓練、地域簡易型災害図上訓練（DIG）*等の実施を支援し、区民の防災意識を高め、地域防災力の向上を図ります。</p> <p>○防災に関する訓練等の実施地区（累計） H22：4地区 ⇒ H26：16地区 ○区防災訓練の実施会場（累計） H22：1カ所 ⇒ H26：4カ所</p>
まちの魅力再発見事業 中)市民部 〔7百万円〕	<p>「楽しい、美味しい、面白い、珍しい」など、一般的な観光情報では知ることのできない中央区の隠れた魅力を掘り起こし、小冊子や市電を活用して区内外に広く発信するとともに、地域住民が主体となって、地域資源を活用した事業を企画実施するための支援を行います。</p> <p>○中央区への定住意向 H22：77.4% ⇒ H26：80.4%</p>
ちゅうおうスタイル食育* 事業 ～未来につなげる食の大切さ～ 中)保健福祉部 〔3百万円〕	<p>子どもから高齢者まで、それぞれのライフステージ*に応じた健康づくりや「食」を通じてのコミュニケーションなどを適切に行えるよう、地域住民はもとより関係機関や団体との協働により、中央卸売市場や専門学校など中央区の地域資源を活かした食育*事業を推進します。</p> <p>○中央区食育*ネットワーク会議の設置 H22：－ ⇒ H26：会議設置と協働事業の実施 ○食育*事業参加者数 H22：294人 ⇒ H26：360人</p>
北区	
地域の支え合いによる 防災力の強化 北)市民部・保健福祉部 〔8百万円〕	<p>災害発生を想定した避難所運営リーダー研修、高齢者等要援護者の見守り体制の充実等、地域の支え合いによる防災力の強化を推進します。</p> <p>○研修を実施した連合町内会数 H22：－ ⇒ H26：11町内会 ○災害を想定した見守り等の体制充実に取り組む地区の数 H22：－ ⇒ H26：11地区</p>
地域連携で進める環境・ リサイクル事業 北)市民部・土木部 〔3百万円〕	<p>循環型社会*の構築を進めるため、地域住民が生ごみ、廃食油、落ち葉のリサイクルなどに積極的に取り組めるよう講習会の開催等を行うとともに、堆肥などリサイクル産品が有効に活用されるネットワークを築くなど、地域におけるリサイクル事業を一体的に進めます。</p> <p>○リサイクルに向けて連携する団体数 H22：1団体 ⇒ H26：12団体</p>
住民との協働による安心 できる冬の暮らし対策 北)土木部 〔4百万円〕	<p>豪雪時などの地域防災力を強化するため、関係機関・団体による連携組織を新たに設立し、情報共有を積極的に図るとともに、この組織を核とする「除排雪情報ネットワーク」を構築し、住民等に対し必要な情報を迅速に提供するなど、地域における冬みちの安全確保を推進します。</p> <p>○FAXなどにより情報伝達を行う単位町内会数 H22：－ ⇒ H24：310町内会 ○砂入りペットボトル作成参加団体数 H22：－ ⇒ H26：40団体</p>

事業名・担当部 (計画事業費)	事業内容 達成目標
東区	
区民とつくる「東区防災協働社会」への取組 東)市民部 [13百万円]	東区地域防災計画の見直し、自主防災組織等の実践的活動の充実強化を図り、区民の自助・共助の意識を醸成します。また、要援護者支援など「東区防災協働社会」の構築を図ります。 ○東区地域防災計画の見直し H22： - ⇒ H24：見直し
災害時の要援護者支援ネットワーク構築 東)保健福祉部 [4百万円]	地域で暮らす要援護高齢者*や障がいのある方の災害時の避難場所として、医療・福祉施設を活用する東区内でのネットワークを構築します。また、災害時における他市町村の医療・福祉施設との連携システムを、市の玄関口である丘珠空港を活用し東区が先行的に実施します。 ○区内の医療・福祉施設との連携 H22： - ⇒ H23：協定締結 ○都市間連携協定の締結 H22： - ⇒ H26：協定締結
東区の食材を活用したまちづくり推進事業 東)市民部・保健福祉部 [5百万円]	タマネギと牛乳を東区の食材としてまちづくりに活用することで地産地消を促進し、食育*を推進するとともに、ブランドであるタマネギ「札幌黄」のPRにより地域の活性化等を図ります。 ○「札幌黄」を知っている人の割合 H22： - ⇒ H26：50% ○地域産物を介した食育*推進の情報交換回数 H22： - ⇒ H26：1回
白石区	
地域防災力アップ事業 白)市民部・保健福祉部 [9百万円]	地域防災力の向上を図るため、地域の防災活動への支援を強化するほか、若者を含めたさまざまな人々により、地域が主体となった要援護者への支援活動を推進します。 ○要援護者の避難体制が確立している地区 H22：4地区 ⇒ H26：8地区
若い世代とともに進めるまちづくり 白)市民部 [10百万円]	区内の若い世代に、まちづくり活動への参加や、事業の企画・運営の機会を提供するとともに、地域の魅力や歴史等を掲載した情報誌の配布により、ふるさと意識を醸成し、住みよいまちづくりを共に進めます。 ○若い世代の地域活動への参加人数 H22：30人 ⇒ H26：100人
みんなで作る快適・憩い空間 ～白石サイクリングロード～ 白)市民部・土木部 [6百万円]	白石サイクリングロードにおいて、自転車利用者への講習会を開催するなどマナー向上の取り組みやマラソン大会の開催など、歩行者と自転車利用者が快適で憩いのある空間を創出します。 ○白石サイクリングロードのマナー啓発・清掃活動に参加する団体 H22： - ⇒ H26：8団体
厚別区	
厚別区民自主防災力向上事業 厚)市民部 [4百万円]	防災講演会、地域防災講習会、地域簡易型災害図上訓練(DIG)*を実施し、区民の自主防災力を高めます。 ○防災講演会の開催 H22： - ⇒ H26：1回 ○地域防災講習会の実施 H22： - ⇒ H26：2回 ○DIG*の実施 H22：1回 ⇒ H26：7回
にぎわいのある副都心推進事業 厚)市民部 [17百万円]	厚別副都心のにぎわいを創出し、厚別区全体の活性化を図るため、ふれあい広場あつべつや科学館公園などの厚別副都心周辺施設を使ったイベントの実施やイベント内容に応じた支援を行います。 ○ふれあい広場あつべつの利用日数 H22：128日 ⇒ H26：134日 ○新規、誘致、レベルアップしたイベント数(累計) H22： - ⇒ H26：6回
陽だまりロード利用者へのマナー啓発事業 厚)土木部 [4百万円]	陽だまりロードにおいて、区民等と協働でマナー啓発活動を実施し、利用者のマナーの向上を目指します。また、同一路線の延長にある白石区とも連携した啓発の展開を進めていきます。 ○啓発活動の実施回数 H22：1回 ⇒ H26：3回
福祉寸劇団による高齢者支援事業 厚)保健福祉部 [3百万円]	高齢者が安心して暮らせるよう、地域の会館等で寸劇を交えながら高齢者に対し啓発活動を行っている福祉寸劇団の取り組みに対して支援を行います。 ○寸劇実施回数 H22：8回 ⇒ H26：12回

事業名・担当部 (計画事業費)	事業内容 達成目標
豊平区	
防災・介護予防普及啓発事業 「元気ハツラツ熟年広場」 豊)市民部 [3百万円]	<p>高齢者が、災害発生時に自らの身の安全を守るために必要な防災意識の高揚や、健やかに自立した生活を送るための介護予防意識の普及啓発を目的に、講演会、健康度測定、体力づくり、地域簡易型災害図上訓練(DIG)*等を実施します。</p> <p>○防災・介護予防普及啓発事業「元気ハツラツ熟年広場」実施回数 H22：－ ⇒ H26：18回</p>
とよひら元気!食育*推進事業 豊)保健福祉部 [4百万円]	<p>「食」を視点に区のシンボルである「りんご」を使ったレシピの商品化を区内菓子店等と連携して進めます。また、区内の事業者等と連携し、食育*活動ができる場などの情報を一元化し、区民へ情報提供を行っていくとともに講習会などを実施します。</p> <p>○食育*活動協力事業者等の数 H22：－ ⇒ H26：8事業者</p>
スポーツを通じた健康・まちづくり支援事業 豊)市民部 [9百万円]	<p>地域の活性化を目的に、札幌ドーム等の施設とプロスポーツチーム、商店街、地域団体と協働でスポーツ・健康イベントを行うなど、札幌ドーム周辺等のにぎわいを創出します。また、区内スポーツ施設の利用と活用を図り、スポーツ振興と健康づくりを支援します。</p> <p>○スポーツ・健康イベント参加者数 H22：－ ⇒ H26：3,200人 ○札幌ドームのイベントに出店する店舗数 H22：－ ⇒ H26：30店</p>
清田区	
地域の防災力向上に向けた活動支援事業 清)市民部 [6百万円]	<p>地域が主体となって行う「自主防災活動」の活性化、災害時避難の手助けが必要な住民への支援を行う「災害時助け合い活動」への取り組みの拡大等を支援することで、防災に対する意識高揚、安心感、連帯感の醸成を目指します。</p> <p>○地域主体の自主防災活動を行う町内会・自治会 H22：－ ⇒ H26：40町内会・自治会 ○災害時助け合い活動に取り組む地区数 H22：1地区 ⇒ H26：5地区</p>
みどりとふれあい豊かな地域づくり事業 清)市民部 [4百万円]	<p>区のまちづくりの視点「みどり」をキーワードとして、みどりのカーテン推進による環境に配慮した生活への意識啓発を行うとともに、地域におけるふれあいの場を創出するためガーデニング*を普及促進することにより、みどり豊かなまちづくりを進めます。</p> <p>○みどりのカーテンモニター参加者数(累計) H22：－ ⇒ H26：100人</p>
旧国道36号(やすらぎ歩行空間)魅力アップ事業 清)市民部 [5百万円]	<p>旧国道36号の良好な環境を生かすために策定した「やすらぎ歩行空間プラン」に基づき、歴史の再発掘・草刈り清掃・ウォーキングコースの設定など、区民による旧道の魅力アップのための取り組みを区民参加により検討を進め、実施していきます。</p> <p>○事業参加者数 H22：77人 ⇒ H26：300人</p>

事業名・担当部 (計画事業費)	事業内容 達成目標
南区	
地域防災力向上事業 南)市民部 [10百万円]	南区は、山や河川等自然の地形の中で街が整備され、自然災害への備えが重要な地域であるため、地域が主体となった防災マップの作成支援等を通じて、地域住民の意識向上と自主防災組織の体制づくりを支援します。 ○防災マップの作成・配布部数 H22：－ ⇒ H26：71,000部 ○災害時要援護者避難支援事業の説明会実施 H22：－ ⇒ H26：10地区
「住んでよし、訪れてよし」の魅力あふれるまちづくり事業 (シーニックバイウェイ支援事業) 南)市民部 [20百万円]	住民のまちづくり活動を推進するために、「住んでよし、訪れてよし」の都市空間を目指し、地域資源の活用や地域活動の連携等による魅力あるまちづくりに住民が主体的に取り組んでいるシーニックバイウェイの活動を支援します。 ○シーニックバイウェイルート運営代表者会議の構成団体数 H22：36団体 ⇒ H26：40団体
健やかな子育て支援事業 ～親子で元気ところからだ～ 南)保健福祉部 [4百万円]	育てにくい子どもの理解を深めるため、育児に悩む母親や地域支援者を対象に心理専門職によるミーティング、研修会などを実施するほか、地域と交流を図りながら親子でリズム運動する機会を提供し、親子の心と体の健康を支援します。 ○地域の子育て支援者への研修(累計) H22：1回 ⇒ H26：8回 ○リズム運動参加親子数 H22：98組 ⇒ H26：200組
西区	
地域防災力の強化による自然と調和するまちづくり事業 西)市民部 [3百万円]	地域の防災力を強化するため、「(仮称)西区地域防災等会議」を設立し、町内会や地域団体、専門業者などと行政が一体となって、防災や大型野生動物対策の専門知識を持つ人材の育成や地域防災計画の見直しなど災害時の共助体制を構築します。 ○地域防災研修会参加者 H22：－ ⇒ H26：400人 ○防災・災害時対応に関する専門知識を持つ人材の育成 H22：－ ⇒ H26：10人
エコまち西区推進事業 ～更なるエコライフ*・コミュニティ*の創出を目指して～ 西)市民部 [26百万円]	住民自らの手で継続・発展するまちを目指して、「地球に優しいまちづくりを進める西区民会議」を中心として、環境まちづくりリーダーの養成や「西区子ども環境広場」など多様な環境事業を支援します。 ○環境活動に参加する市民 H22：21,000人 ⇒ H26：28,000人
人と文化を結ぶまちづくり事業 西)市民部 [18百万円]	「人と文化を結ぶまちづくり事業」の活動の一環である「土曜はコトニ」に、新たに伝統文化の観点を加え、幅広い年齢層を対象とした西区独自の「文化を通じたまちづくり」を目指します。 ○イベント参加者数 H22：8,000人 ⇒ H26：16,000人

事業名・担当部 (計画事業費)	事業内容 達成目標
手稲区	
地域防災力向上支援事業 手)市民部 [4百万円]	地域における災害時要援護者避難支援対策に関する取り組みのきっかけづくりとして、講習会や地域の防災活動者の防災知識・防災技術の向上を目的とした講習会等を実施します。 ○災害時要援護者避難支援対策に関する講演会参加者数(累計) H22: - ⇒ H26: 300人 ○地域の防災活動者への講習会参加者数(累計) H22: - ⇒ H26: 480人
手稲区マスコットキャラクター「ていぬ」を活用した戦略的情報発信事業 手)市民部 [5百万円]	区民の“ふるさと手稲”に対する誇りと愛着を育むとともに、市民が主役のまちづくりに向けた取り組みを進めるため、手稲区マスコットキャラクター「ていぬ」を活用するほか、北海道工業大学などと連携して手稲のまちづくりの紹介や手稲の魅力を発信します。 ○情報発信ツールの作成 ・ニュースペーパー、4コマ漫画 H22: - ⇒ H24: 作成 ・ホームページ H22: - ⇒ H25: 制作 ・映像 H22: - ⇒ H26: 制作
次世代育成プロジェクト 手)市民部 [11百万円]	手稲のまちづくりを支える未来の担い手を育成するため、郷土の歴史やまちづくりに触れる機会をつくります。また、子どもたちの交通安全や防犯の啓発活動を強化します。 ○史跡案内板の整備 H22: - ⇒ H26: 15カ所 ○ストップマークの配布数(累計) H22: 400枚 ⇒ H26: 1,600枚
知的障がい者等を対象としたホームヘルパー養成事業 保)保健福祉部 手)保健福祉部 [18百万円]	障がいのある人への一貫した支援体制の構築と自立支援の一環として、知的障がい者等を対象としたホームヘルパー養成講座をNPO*と連携して実施します。 ○ホームヘルパー2級資格取得者数(累計) H22: 19人 ⇒ H26: 100人